





褥瘡の薬ってどんなものがあるの？





担当：薬剤科

当院で褥瘡の時に使用されるお薬です。薬によって効き目が異なっているため、適切に使用することにより、効果的に褥瘡の改善が得られます。気になることがありましたら、医師・薬剤師にご相談下さい。




1. 主に浸出液、感染、壊死組織が起きないようにする薬

ゲーベンクリーム	
細菌が増えないようにするので、感染をしやすい時期に適した薬剤です。 使用する場合はできる限り傷口を清潔にし、壊死組織を取り除いてください。 長期の使用は避けるようにして下さい。	
イソジンシュガーパスタ軟膏	
褥瘡面から出る細菌や真菌に対し強い殺菌力を持つため、感染しやすい時期に適した薬剤です。 また傷を治すようにする効果があります。ヨウ素に過敏症のある人は使用しないで下さい。	
カデックス軟膏	
カデキソマーによる滲出液と壊死組織の吸収作用に加え、ヨウ素による抗菌作用があります。 ヨウ素に過敏症のある人は使用しないで下さい。	
イソジンゲル	
傷の消毒に使われます。ヨウ素に過敏症のある人は使用できません。	

2. 主に肉芽を作り、傷口を小さくするための薬

フィブラストスプレー	
傷を治す効果を高め、新しい血管を作り、肉芽を作るのを早めます。 薬価が他と比べて高価となっています。	
オルセノン軟膏	
肉芽を作るのを早める効果が強いです。傷口を治すのを高め、新しい血管を作るのを早めます。	
アクトシン軟膏	
傷口を小さくし治すのを早めます。さらに血流を良くし、新しい血管を作るのを早めます。 肉芽や皮膚を作るのを早める効果もあります。	
プロスタンディン軟膏	
皮膚の血流を増加させ、傷口が治るのを早めたり、新しい血管や皮膚を作るのを早めたりします。 重篤な心不全のある人、出血している人、妊婦又は妊娠の可能性のある人は使用できません。 1日に10gを超える量を使用してはいけません。	

3. その他の薬

アズノール軟膏	
傷を治すのを早めます。 炎症・むくみを抑える効果がありますが、効果が弱いため軽い褥瘡に使われます。	
亜鉛華単軟膏	
傷口の引き締めや保護をする効果があり、炎症している皮膚面において炎症を抑えて傷を治しますが、作用が弱いため軽い褥瘡に使用されます	
ブロメライン軟膏	
壊死組織の分解作用を示します。正常な皮膚に接触しないように使用する必要があります。	

褥瘡の薬の使い方は？

当院で褥瘡のときに使用されるお薬の一覧です。きちんとした用法・用量を守らないと、十分な効果が得られなかったり、副作用を起こしてしまったりすることがあります。

下記の用法を参考とし、医師の指示どおりに使用してください。

ゲーベンクリーム
<ul style="list-style-type: none">・ 1日1回、清潔なヘラを用いて、傷口を覆うのに必要かつ十分な厚さ（約2～3mm）に直接塗るか、ガーゼ等に同様の厚さにのぼし貼り付け、包帯等で固定してください。・ 2日目以降は、前日に塗った薬剤をきれいに拭くか温水浴等で洗い落とした後、新たに本剤を塗って下さい。・ 他の薬と混ぜないで下さい。
イソジンシュガーパスタ軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 褥瘡面を清潔にした後、1日1～2回ガーゼにのぼして貼り付けるか、患部に直接塗り、その上をガーゼで保護してください。
カデックス軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 潰瘍面をきれいに拭いたあと、通常1日1回、患部に約3mmの厚さに塗布してください。・ 滲出液の量が多い場合は、1日2回塗布してください。
イソジンゲル
<ul style="list-style-type: none">・ 石けん類はイソジンゲルの殺菌効果を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用してください。
フィブラストスプレー
<ul style="list-style-type: none">・ 褥瘡面をきれいに拭いたあと、専用の噴霧器を用いて1日1回、褥瘡の最大径が6cm以内の場合は褥瘡面から約5cm離して5回噴霧してください。褥瘡の最大径が6cmを超える場合は褥瘡面から約5cm離して同一の褥瘡面に5回噴霧してください。なお、周辺の正常な皮膚に付着した場合は、脱脂綿等でふき取ってください。・ 1日の投与量は2本（1000μg）を超えないようにしてください。・ 溶解後は10℃以下の冷暗所に保存し、2週間以内に使用してください。
オルセノン軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 褥瘡面をきれいに拭いたあと、1日1～2回ガーゼなどにのぼして貼り付けるか、患部に直接塗ってください。
アクトシン軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 褥瘡面をきれいに拭いたあと、1日1～2回ガーゼなどにのぼして貼り付けるか、患部に直接塗ってください。
プロスタンディン軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 褥瘡部の周りから褥瘡部にかけて消毒・清潔にした後、1日2回、適量をガーゼなどにのぼして貼り付けるか、褥瘡部に直接塗り、ガーゼなどで保護してください。・ 副作用を起こすことがあるので、原則として、大量に（1日10gを超える）使用しないで下さい。・ 褥瘡面の出血が強まったときはこの薬の使用を中止してください。
アズノール軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 症状により、適量を1日数回塗ってください。
亜鉛華単軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 症状に応じて1日1～数回、患部に塗りつけるか、貼り付けてください。
ブロメライン軟膏
<ul style="list-style-type: none">・ 1日1回ガーゼ、リントなどに適量の軟膏をのぼし、潰瘍辺縁になるべく触れないようにして塗布してください。・ 新生肉芽組織の再生が認められた場合は使用を中止してください。